

昭和四十年二月十七日招集
第二回市議會臨時會々議錄

館山市議会第二回臨時会会議録

昭和四十年二月招集

二月十七日(水曜日)

一 現在議員三十五名でその氏名次々とおり

一番 吉田 勇治郎 二番 鈴木 正一郎

三番 小柴 孝 四番 館石 伝蔵

五番 田中 祿郎 六番 秋山 大三郎

七番 田村 源治郎 八番 望月 照正

九番 安西 益男 一〇番 辻田 実

一一番 石井 正 一二番 黒川 佐太郎

一三番 菊井 敏博 一四番 志村 信作

一五番 小沢 恵太郎 一六番 関 武夫

一八番 西村 真次 一九番 藤田 好治

二〇番 保科 忠夫 二一番 江田 徳太郎

二番 君塚喜三 二三番 中村省吾

二四番 島野茂樹郎 二五番 萩生田七郎

二六番 鈴木孝 二七番 嶋田繁

二八番 山田教字 二九番 鈴木市蔵

三〇番 安藤亀吉 三一番 安沢徳順

三二番 三沢節 三三番 高橋文治

三四番 山本昇 三五番 松本藤太郎

三六番 山口康

一 議事日程

第一 議案第四号 館山市立館山高等学校渠立移管について

一 抜第百二十一条による出席説明員

市 長 本間 謙

助 役 小出武男

収 入 役 完戸 貴

庶務課長

山口

実

財政課長

長谷川 広治

教育 長

押本 禧悦

教育委員 長

干場 伊右衛門

一本議会の事務局長、局長補佐書記及び取員

事務局 長

高梨 青一

事務局 長補佐

太田 博雄

書記

安藤 恭一

取員

錦織 睦子

一本出席議員 三十四名

一本出席議員 一名

七番 田村 源治郎

午後二時二分 開議

・議長(黒川佐太郎君) 本日の出席議員数 三十名。

こいより第二回市議会臨時会を開会いたします。

本臨時会の議案説明のため本間市長、小出助役、完戸收入役、長谷川課長、押本教育長、千場課長、以上の出席を求めましたので、中報告いたします。

議案を配付いたさせました。議案の配付漏れはありませんか。配付漏れなさと認めます。

会議録署名員、決定を行ないます。

本臨時会の会議録署名員に一五番議員小沢恵太郎君、二三番議員中村省吾君、以上両君を指名いたします。こいより中議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 異議なしと認めます。よって決まりました。

会期の決定を行ないます。

本臨時会の会期につき、議会議長、各協賛会、意見は本日一日ということであります。

おはかりいたします。

会期を一日と定めますことにや、異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 異議なしと認めます。よって、会議は一日と決定いたします。

本日、議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

市長、提案説明を求めます。

(市長登壇) (拍手)

市長(本間謙君) 本日臨時市議会を招集いたしましたところ、議員各位には、非常にゆとり、ゆたかなところ、ゆたかなところ、きまいて、まことにありがたいと思っています。

本日提案いたします。議案は、館山高校の県立移管について、市の負担について、件でございます。

館山高校の県立移管につきましては、市民からの要望もございまして、昭和三十八年一月、臨時市会におきまして館山高校を県立移管にする運動を行なう決議が本市会においてなされておたわけでございしますが、それらに基きまして、皆さん方とともに県立移管に対する運動を進めて参つたわけでございしますが、なかなか難点もあつたわけでございすけれども、館山市立高校に工業課程が設置されておるが、非常な力になったと思つたわけでございしますが、県南地方、房州地方には、工業課程の学校はございせんので、やはり県としましては、その必要が認めらるゝわけでございまして、知事も館山高校を県立移管にすることに踏切らるゝわけでございまして、

本年の一月九日に郷土出身の川上副知事さんを館山に
よこさし、まして県立移管に対する県考え方を我々に示
さしたわけでございます。この示された内容によりますと、館
山高校を他の県立う高校並けにするには、約二億五千余
万円、金が必要だというふうなことで、そのうち一億五千
余万円を館山市で負担してもらいたい。

こういうふうなことであったわけでございますが、そのうち館
山の敷地、約千五百坪、それから体育館の建設、
これが五千二百二十万位もの建てももらいたい。

その他、学校施設の二分の一を負担してもらいたい。

合計一億五千余万円、こういうことであったわけござ
いますけれども、その後、皆さんとともにいろいろ検討
したわけでございしますが、館山市の財政から見まいて
なかなか、そういう負担をすることは、どうても困難でも

ある。また館山市は現在館高の資産と約三億円の
程度のもので持つておることも事実であるわけ
でございます。そういうことをいろいろ知事さんにお願
いした結果、本日御審議願う条件となつたわけござ
います。これは知事さんが館山市の財政とかいろ
んなことを考えらひまして示されたことと思ひま
すが、それは大体
甲年度におきましては、体育館の五千二百二十万
円の三分の一、それから敷地の拡張が含まれて
おるわけでございますが、あとのことは今後五
年間の間にやること、こういうことであるわけ
でございます。

私どもは、皆さん方と協議いたしまして、多くても
五千万円程度というところで考えておつたわけ
でございますけれども、果
然、方々でいろいろ検討した結果、本日御審議
を願うような案になつて参つたわけでございます
が、私は、これ以

上の折衝は他々高等学校誘致の場合の振り合ひから
いまして、無理ではないかと思ひまして、本案をこの市会に
上程いたしまして、皆さん方の御審議を願う。こういう
考えをしておる次第でございます。

これからその内容につきまして御検討を願ひたいと思ひ
ますが、いずれにしましてもこれによりまして、昭和四十年
四月から、館山高校が県立館山高校になるわけで
ございまして、これは教育水準の向上からいまして、また
施設の充実にいまして、非常に喜ばしいことであ
りまして、皆さん方とともに本當に喜びに耐えたい次第で
ございます。

どうぞこれからこの案件につきまして項目ごとに御説明申
し上げますからよろしく御審議を願ひまして、満場一
致で御決議をいただきたいと思ひ、次第でございます。

簡單でございますが、ごあいさつにかえさしていただきます。

(拍手)

議長(黒川佐太郎君) 日程第一議案第四号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第四号 館山市立館山高等学校県立移管について

助役(小出武男君) 議案第四号について市説明を申し上げます。

便宜上、この項目ごとに順次御説明をしておきたいと思っております。まず第一、館山高校敷地は、将来、拡張予定部分については、県教育委員会と協議し、逐次購入の上、提供するという点でございますが、県の県立高校の理想として、ましては一万五千坪位の用地を確保したいという方が、理想集うようでございます。しかしながら、これを現在、県立高校の実情から見ましても、一万五千坪を確保してある高校という方は、きわめて少ないというのが、現状のよう

でございます。

そこで現在、館山高校の敷地の状況をみますと、一昨年
から館山高校に工業課程を設置してから、約倍位の
新規面積を確保してありますために、現在におきましては
一万五千坪なにか、現有面積としてあるわけござ
います。

こいにさらに中央に横切っております用排水路、こいに二百
十四坪、それから消防貯水用地として、別途に借りてある
地区が二百十二坪、ございまして、これを合算いたしますと
一万九百三十一坪、約一万一千坪の用地が確保できている
といつても過言でないと思ひます。

なお、県では、現有面積にさらに千五百坪位、ほ山という
要望でございますが、千五百坪の中には、ただ今申しま
したように二百十二坪と二百十四坪というものが含まれており

ます。で、果て理想からいけば、もうあと九百坪ばかりは
しいというが、希望のようでございます。

現実の問題として市は、その線に沿って努力する。で、
ございますが、これは、相手のあることでございます。で、極力
努力をするという意図を示したいと思つてございます。
そこで一項にありますように、今後教育委員会と、その都度
折衝いたしまして、順次、拡張をしていきたいというふうに考
えておるわけでございます。

次、第二項の体育館建設については、五千二百二十万円の
範囲内において、その三分の一を負担するということではござ
います。が、大体建築物については三分の一、それから、そ
の他の設備については、十分の一ということを原則に協
定したいと思つてございます。が、ただ、ここに分けて
いた。二と三を分けました理由は、体育館につきましては

とりあえず現況講堂のない学校である。

早速募立になつても生徒を一堂に集める場所がないといふことで、四十年度にとりあえず、五千二百二十万円をもって体育館を作るというところでございます。第二項を別にいたしまして、四十年度事業として実施していきたいということでございます。

従つてその地元負担は、その三分の一ということで、特に二と三を分けまして三項の特別教室、管理室、及び工業科実習工場、こゝに工場業課程を完備する上において将来不足することをご心配されるものでございますが、こゝに全部完成するためには、金額にして約八千七百万円を要する。三というところでございます。

こゝは今後何年かの中に整備する金額というふうにお含み願ひたいと思ひます。

こいにつきましても特別建物でございますから、三分の一を地元が持つということでございます。

要するに二と三を分けまうは、時期、関係上、便宜上、分けてわかりやすく表示したわけでございます。

第四項でございますが、こいは先ほど申しますように設備の關係でございます。いろいろ機械、器具、こういうもの

の整備するためには、今後七千万位の費用を要するこいにつきましても、期間は今後何年間という期間は未定でございますが、要するに目標は、こいくらいの金をもつて、館山高校を標準並みにしたいというので、ございますので、こい分につきましても、十分の一を地元が負担するということでございます。

それから、第五項でございますが、こいは当然、県立移管の前提をなすものだと思ひますが、一応、議会で意思表示

を必要があると思ひまゝ明記したものでございまして、
要するに現在館山高校が高校用として使用してゐる土地
とか建物とか、その他財産を果に寄付するかどうかとい
う点を第五項にうたいまゝて、以上五点をもつて移管する
条項を了解するということである。方々折衝したいとい
うが、提案の趣旨でございします。以上で概要でございま
すが、提案の理由及び内容を説明いたしました。

議長(黒川佐太郎君)以上をもつて提案理由の説明を終
りました。本案に対する質疑を願ひます。

一〇番(辻田実君)館山高校の移管につきまゝて、三点につ
きまゝて、質問申し上げたいと思ふわけでございます。
従ひまして、この面につきまゝては、系統的に御答弁願
へばというふうに思つてゐるわけでございます。

一つはすでにこの館山高校の移管につきまゝては、昭和

三十八年一月の議会におきまして、移管の決議がなされておるわけでございまして、その当時の内容を見ますると教育の内容には触れず、むしろ、館山高校の施設の充実とそれから県立移管に伴うところの教職員、交流という点が重点となされておるように見受けるわけでございます。そこで、私はまず、第一点として御質問申し上げたいのは、教育内容におきまして、移管に伴ってどのような変化といたんですか、どのようなかわりが出てくるかという点について、伺いたいわけでございます。と申しますのは、高等学校教育におきましては、その地域における文化的な要求、さらに産業的な要求、こういうものと相まって非常に地域的な特色の強い教育というものがなされておるのではないかと、いうふうに考えておるわけでございます。そういう中におきまして、従来、どういうような形で館山高

校が教育方針にのっとりて今日まで参つておるのか。今一度、改めてお伺いしたいわけでございます。

と申しますのは、教育におきまして、地方が独自の教育というものと、教育の中央集権化するというところにおいて、その教育内容において、私はかなり、隔たり、開きというものが生じてくるように伺えます。

私は、高等學校教育におきましては、地域に促した、地域の果能性の中でもって打ち出さなければ、教育的要求に答えるということが、真の教育であるというふうに考えております。

館山市におきましても、幾つかの県立高校がありますが、それらと比べて、館山高校は、そういう面において、市立である。館山市の教育の要望にマッチする、という意味におきまして、私はかなり特色がある、そして非常に意義

うある高等学校というふうに向つておるわけでございます。それども、こういう点につきまして果う行なっている。高等学校教育全般のなか中に果立に移管していく。施行されていくということであるのかないのか。この点はお伺いしたいわけでございます。

二番目に非常に論議されておる問題といつて、高等学校の経済性の問題。すなわち経営内容について御質問申し上げたいわけでございます。

具体的に申しますと、教育の問題でございますが、非常に失礼になるかと思ひます。けれども、実際に館や高校は、経営にいき詰まつておるのかどうかという点について、私はお伺いしたいと思ひつてございます。

と申しますのは、私はいろいろ施設が充実、さらには教育内容が充実していく面におきましては、ここ数年来非常に

に多額の費用を要していることは私は存じております。

一カーながら、整装的には繁盛してあるやに伺えるわけではございます。現在、館山市にありまする女房高等学校

におきましても、南高校におきましても、立派な校舎を建てまして、内容の実態はよくわかりませんけれども、聞くところによりますと、外觀的には充実う方向をたどつておるといふときに、館山高校が財政面について非常にどうにもならないというふうな状態にきておるうかどうか、この点をお伺いしたいわけです。

多くう市民の中にある考えといつて、約三億にうばる資産をそのまま果にただでもつくつてしまふ。ただもううほど安いことはない。こういう常識的な考えがあるわけではございます。

私は、この三億の金を果立に移管することは決つてお

もうではございませんけれども、一か一移管につきましては、全体的に申し上げましたところ、教育内容、教育方針、というものが、やはり明らかならなっていて、いかない中でありますかと、果五にやつてしまおうかという形では、非常に疑問がでてくる。そうして今回の経緯をたどってみますと、館山高校は、市立の段階で経営して維持していくという面については、経済的になかなか無理である。このような見方がかなり支配的にあるように私は聞いておるわけでございまして、この点について他、市立高校と比較すること、非常に問題があるかと思ひます。どう程度、困難性があるか。経営の問題を云々することは、非常に問題があるかと思ひますが、この点についてお伺いしたいわけでございます。

三番目につきましては、果五移管に伴つて今後出てくる問

題が幾つかあると思います。

従つて移管後の問題についてお伺いしたい。

一つは、館山高校が女子高校として、伝統を持って今日に至つておるわけでございます。

そういう中におきまして、今度の県立移管の条件が産業高校、すなわち、工業高校としての特質が強く打ち出されておる。

県に移管した場合にむしろ女子高校というよりも産業高校として、見通しが非常に強いわけでございます。

こうなつてきますると、相当数の人間が女子高校生が館山高校に入つておるわけでございます。——カー！
県立に移管されてまいりますと、県の方針にそつて私は、設定されていくことは、当然だろうと思います。

そういう中において、女子中学生が高校に進学する門が

さらに狭くなるのではなにかという点が心配されるわけでございまするけれども、こゝの問題についてはどうようにお考えになるうかお伺いしたいわけでございます。

さらに館山市におきましては、全入という問題はまだ十分になさめておられないわけでございます。羊々市内の中学生が、高校を希望しながら進学できないという中におきまして、将来市立高校を作つてこゝう全入問題というものを解消していかねければならないことは、当然出てくるわけでございますけれども、こゝの問題については、今度の移管の問題とやらんで腹案なり見通し、そういうものがあるのかないかお伺いしたいわけでございます。以上、三つにつきましてお願いしたいと思います。教育長(押本喜逸君)ただ今辻田議員からう極めて広い立場からまた学校長でなければ答弁できないような内容等

を長い歴史の中、教育の筋道」ということは、私には、ちよ
つとわかりませんが、一般論として申し上げます。

いわゆる公立学校、市立学校の特徴乃至は、県立になった
場合、変更といった問題、教育内容の問題から申し上げ
げて見たいんですが、大体、義務教育学校も、高等学
校も、大学も、大体、教育課程という問題については、
その基本的なものは、文部省で示されておりますので、
市立高校であろうと、県立高校であろうと、或いは、私立
の学校でも、それに準拠してありまして、そこには、大きな
変化、人全体的な変化は、もたらせられないと思うわけで
ございます。

次に市立とか、県立とか私立、こゝに分けますと、公立の学
校と私立の学校では、私立は、学校が持っている伝統的な
特質を發揮できますけれども、公立の学校でいなら、

..
 そう非常に特徴のある学校経営というようなことはな
 てこないかと思ひます。

「か」その学校が持つ教科、農業科、工業科、或いは
 家政科を持つところの学校とかそういうことでは、おの
 特徴も出ると思ひます。

次に市立高校がその市や市民を育成するということ。
 ばかりにも言えないわけでございまして、その多くは、その市
 の人だけを入れるのではなくて、その近所の希望するところ
 の生徒を入れるわけでございまして、そういう意味では、
 具体的な教育課程の内容や指導の面では、材料と
 して、その地域から持ってくるということは考えられます。
 千葉である一つの教材を教えていく場合に千葉は千葉
 の内容を主としてやるかもしれませんが。

ここにありますと、安房地方の材料を先にするといふと

とはあろうかと思ひますが、館山市だけということはないと思ひます。特にニッハは、学校が上級にならばなるほど、そういうことになるのではないかと思ひます。

二番目は、経費にゆきづまりがあるかないかという問題でございますが、ニッハも大へんむづかしい問題でございます。私は、館山高校が市とP.T.Aと或いは地域の方々とこうな方々が、非常に館高を熱愛されておしまつて、いろんな意味で、どうにもならなくなつたというふうには私は考えません。

一かゝ、今後果五になつた方がよいというような問題については、先ほど市長さんからも助役さんからもお話がございまつたように特にまた工業課程というやうなものを持っております。立場からは、工業高校というものは施設や教材、教員、こういうものについて工業高校を作るなら、五億とか六億とかいう費用が必要であるということでありまふ。

そうした費用が必要であるところならば、館山市でやって
 いくより、県立という大きな立場から、財源ということに
 なった方が、さらによくなるのではないかということを考えます。
 その次、移転後の問題でございますが、そつとして女子
 校のゆくえというような問題を御質問のようでございま
 す。が、こちらについては、移転後は県立でございますから、私
 どもが、プ・ア・サリ、或いは、地元で要望というようにこと
 申し上げることはできると思いますが、県立ですから、県立
 場で規模とか、内容というようにも、検討されていく
 ではないかと思ひますが、幸いに移転するとき、県の教育委
 員会でも要望があつたら、おーなさいというふうなことも
 聞いてありますので、女子高校、家政科の問題につきま
 は、特に女子教育の学校として創設されたのでございま
 すので、当分の間は、是非存続してもらいたいという要綱を

入らうということを考えているわけでございます。

なお、今後、高校全入というような問題で市立を建てるかどうか、という見通しについては、今はそれどころではなくて金く今後、問題になるのではないかと思いますが、中学生も今のところ五年や七年は生徒が減っていく段階にありますので、進学率がふえまして全入という問題はなお、多く問題がございますが、そういうことにならなくてもよいのではないかと、いうようなただそういう予想と持つだけでございます。

以上。

助役（かみ武男君）館山高校を維持していくについて、経済面からどういう状況であるか、こういうことでございますが、学校経営は普通、事業と違ひまして、ただ単に残らうという計算はあまりないと思います。従来言われておるように館山高校があるために義務教育に、お寄せがある。

るのではないか。こういう意見がたびたびあるようでございますが、これもいわゆる見方の問題であらうと思います。

戦政的には、教育長もいわれたようにP・T・Aその他いろいろ協力がございまして、従来からも相当な寄付がございまして、いろいろな校舎とか、その他設備に充てておるといふことも、やはりそういう不足分をカバーすると申しますが、市々ためには戦政的な援助という面にもいえると思います。

こういうことによつて従来やつて参りまして、経済的に義務教育を食つてまで、館山高校を経営しておったということは、当たらないと思います。しかし今後これを持続する場合におきましては、ただ今も議案に説明いたしまして、うに充壁にするためには二億数千万円、金がいる。しかもそれが一応高等学校の標準である。さらによくするといふ

ことになりますと、それ以上経費を投入しなくてはならぬ
という結果になるので、そういう財源まで今後館山市の財
政でカバーしていくことがどうかという問題は、これはおぼ
ろけからまた別個の将来の問題になりますが、そういうことを
勘案いたしまして、たゞきにやけり時期としては今移管する
というところが経済的にもいいとやないかというふうに
考えるわけでございます。

館山高校のために不足している分としては従来やってお
られますようなP・T・Aその他からの援助を相当受け
ておることかというても、おわかりだろうと思います。
そのために市の財政が圧迫されているということもいえ
ません。他の教育行政に比べ寄与しているところというこ
ともいえないという程度に申し上げさせていただきます。
思っています。

○一々番(廿田実君)大体わかりました。さらに今、助役さんが
 答弁されたことにつきまして、非常に大きな問題でござい
 ますので、第一として御質問いたいたいと思うわけでご
 ざいます。私はここでもって、経営の問題がどうかとい
 うことは特に、経営については、論議いたくありません。け
 ども、ただ今の御答弁でございますと、今までの過程
 において、現時点においては、館山高校は、館山市の全
 体的教育に対して、一々寄せたり、圧迫、そういうも
 うは、なかったのだ。そういう中で、経営されて、いたのだ。
 経営という言葉がいかにどうか知りませんが、経営という
 ことについては、さして、経営について、さういえないのだとい
 うに、解釈して、いいかどうか。
 この点は、そういうふうに考えて、いいかは、はっきりして、いた
 きたいと思います。

二点目に教育長が先ほど答弁さいました中に高等学
校教育については文部省の方針にそつてやうになるで
ほとんど同じなんだ。私立の場合、それでも多少違ふ
場合があるというやうなことをおっしゃつてゐるわけでご
ざいまするけれども、この点について私が見るところによ
りますと、市立におきましても、相当違ひがあるのではない
かというふうに考へてゐるわけでございます。

というのは、同じやうな女子高校に、南高校といひますか、
あるわけでございまするけれども、私は学力の差を云々
することはいたしませんか。一か一ながら実際に町の人
たちまた地域の人たちがいう場合に、館山高校の卒業
生、人は非常に自由でおおらかで、そつて使える
人間が多いのだということでも、市内の就取り率に
ついてはもちろんな、学校の先生、努力もあるかと思ひま

すが、非常に就取率がほかの高校よりも高いという
現実、高いということとは、私はいろいろ見方もあるかも
しれません。館山高校の卒業生は役立つことが多い。
私は、女房高卒業だから母校をくますと怒られるかも
しませんが、インテリぶったところがあるけれども、実際
にへ理屈はいうけれども使いづらい。こういうようなこと
を私は非常に多く耳にするわけでございます。

これは、一つ、面に現われた館山高校が市立であるゆえん
の一つ、理由で地域、産業、経済界の要望にこたえる
ような教育というものはここにあったのではないか。

私は市教育委員会はドメ、P・T・A、各関係者、人
たちが自分、町の学校だという熱意、うたまうだとう
ふうに向つておるわけでございまして、こういう点について、移
管することについて、果立、教育内容でもって同化されていく

危険性が含まれるのではないかとこの点を配ておりますが、
こゝうに配があると我々も確固たる態度というものがな
い、とまずい点も残るのではないかとこのように思ひまゝてあ
えて御質問するわけでございます。

三番目に渠五の立場の方が確かに施設も充実するという
ことをおっしゃつておりますけれども、私もそのようない
ちます。

市々予算と渠々予算では雲泥の差いでございます。

一かながら現実の問題として渠下に五つの工業高校
があるところでございますが、一は立派にして、あとう工
業高校においてはぼうぼうでもって内容もない、なことは
いと聞いております。さうに相当数ある一般高校につき
ましても、女房高にいたしましても、二高にいたしましても
私はぼうぼうでもってむしろ館山高校の方が規模は

ふさいけれども、五飛に充実しているような気がするわけ
でございます。

私は館山高校だけがそう、た全般的に多く老朽化してい
る県立高校の中において、すぐによくなるというようなこと
をおっしゃっておりますけれども、この点について根拠がある
のか。以上 三点についてお伺いしたいわけでございます。

。即役（小島武男君）館山高校、財政的な見方について、や
質問でございます。

これも文付税、その他いろいろな複雑化の問題がござい
まして、見方にまぎれていろいろ角度からいえると思いま
す。文付税というのは高校分幾らということではございませ
んが、そういうふうに分けて考えること自体がおかしいで
ございますが、需要額と支出額、収入、この比率から算定
していくと、需要額が半分位がきておるわけでございますが、

そういう見方からいくとやはり三百万円位の持ち出しという
くらいになるかと思ひます。

こゝは、見方、問題でいろいろ計算があると思ひますが、
従来いひておりますように、高校経営のために、義務教
育に猛烈な一わ寄せが寄せたということは、三百万円で
も一わ寄せではないかというところ、一わ寄せでございませうが、
巷間で言ひておるようないわ寄せではないかというふうな
私ども考えております。

。教育長（押本禧逸君）私どもが分担と思ひけるのは二項ござい
ます。で申し上げます。

一つは、館山高校が市立できめて明かると実利的な生徒を
卒業させて就取率も極めてよい学校である。

そゝは先ほど私が一般論で申し上げたのは公立の学校は、
文部省で教える内容というふうなものを規定され、こゝにそ

ってやるということ。どういふような生徒ができてくるかといふことは永いその学校の歴史、伝統と校長、或いは先生方も一緒になった経営の姿が伝統と校風になって残ってくるものであろうかと思ひます。

さらに卒業生の動向というようなことも、大体が大学にいくといつたら多分、こういう形とは違つた形の伝統と校風があらはれる。

ところが館山高校は卒業生の動向が就取にいくものが多いうではないか。そういうことであるならば、教育を指導している場の中です。就取という問題に力が入つてくるわけでございます。それが、一つの学校経営の特徴という形で残されていくものになつてきたのではないかというふうな思ひかけでございます。

次に移管すれば、直ちに学校がよくなるか。そんなことは、

教育の上ではございません。教育は一日や二日ではよくなるものではないと喜んで、一日一日の指導を通じまゐって、きてくるわけでございます。直ちに特室が鉄筋になったから生徒がすぐ振りかわったということも多分ないと思ひます。一か一ながら移管すれば、校舎も今よりよくなるであらう。教材設備も市であつてゐるものよりはさらによくなると思ひやる。先生方も多少は定員あたりもよくなつてくるのではないかと。いうことを予想して今後よくなるであらうという意味で申し上げた。

一〇番(辻田実君)大体了解いたしたいと思います。先ほどの教育長の答弁の中で一点だけはつきりきいていただきたいと思います。

高校全入の問題と市立設立の問題については、現在考へておられない。それまでとても固わらないということでございます。

また、私はそういう状態には参ります。

一か二ながら、現実には移管後にすぐ盛り上ってくる問題ではないかという点が私は想定される。そう思つてゐるわけでございます。

移管するのと全入の問題については、どうかかわらないという形でもって教育長の方からつばなされますと、問題が起ころ。全入の問題については考へてゐるのかどうか。

ここでもって移管してしまつてあとで果てきめた定数だけ一か二ないということであると問題が起ころ。

そういう点についても決意、先ほど答弁では問題があるかと思つた。その点を聞いて質問を打ち切りたいと思つた。教育長(押本徳逸君) 実行するかしないということまで私がこゝではつきりといつてもむづかしいことでございますので、大体今の時点にとつては、果て移管が手いっぱいだ。

今後、生徒が多少少なくなる或いは横ばいになっても進学率がふえるから、今の定員のままでは落ちるであろうということは、井田さんのおっしゃるとおりで、ここ二、三年はいいと思います。

全入で次の学校をどういうふうにするかということとはもう一時期間をおいてから考えさうしていただきたいと思うわけでございます。二五番(萩生田七郎君)この点に關しまして、市当局は、御苦い。結果、こういう結論を得たということに対して努力熱意に対して心から敬意を表します。

私は二点についてお尋ねいたします。

第一点はソロバンの問題でござりますが、いろいろ説明を聞きますると敷地さらに千五百坪ほど必要だ。一か一實際問題として一万五百坪あるから水路、消防施設等を含めますと、千百坪位寄付するといひ、三、四解釈ありでありますが一千万円に、千百万円。

第二の建設費の三分の一負担。この負担が千七百四十万、第三の特別教室その他が三分の一、二千九百万、

第四が十分の一、七百万合計しますと、六千四百四十万でございまして、当初が一億五千五百万円の県を要求に対して減額され、結構な現象でございまして、その点に対して、でも心から敬意を表するものでございます。

そこで、教育の機会均等という立場から、生徒の分布状態が、いわゆる県立学校に性格をおびている。分布状態も町村の子が多いという現象。

そうして従来この維持につきまして関係町村と話し合いが行なわれた。特別寄付を受けた。

今回の推定します六千四百四十万円も従来が話し合いに基いて関係町村も負担するということに相なると思いますが、この話し合いがどの程度進捗しておるか。

具体的な県立移管についてどの程度まで経済負担とする
ことが第一点。

第二点は一〇番議員もお話がありましたが、市長さんが
御説明の中に承りますところによりきすと、工業課程が
新設されたその結果、今回の話が極めてスムーズに進んだ。
こういう話でございます。そうした以上、当然、これは、この高
等学校は重点的にウエイトを点におきまいて、工業学校
的な存在になるということが想像されるのでありますが、そ
うしますと、従来必要性があつて相当受験希望数
多い商業課程、家庭課程、これが一体どう変化するか。
私どもは、県立移管問題を審議する場合において、預
にくる問題である。ところが今う答弁によりきすると
県立に移管すれば県の方針通りであるから、何とも
申し上げられない。

こゝろ御答弁ではあまり、木で鼻をかんだいような感じに
がたわけでございます。

そこで伺いたいことは、いわゆる果当局も果立移管の
条件として要望事項をいせとおうござつておると聞いた。
ただいま御答弁があつた。

その要望が果当局との間に進められたいが、特に商業課程
家庭課程が減らされるという可能性が多分にあるのであ
ります。この点につきましてあえて御質問申し上げるとこ
ろでございます。

議長(黒川住太郎君)暫時休憩いたします。

午後 三時 七分 休憩

午後 三時 三十分 再開

・議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き開きます。

・市長(本間護君)萩生田議員、御質問に対してお答えいたします。

地元負担金につきましては、実は昨日、館山高校県立移管促進協議会ですが、これを開いたわけでございます。

そうときにこういた方は、町村長さんが、約半数位、あとは代理者でございまして、丁・A代表、議長会代表、学校長、代表、いろいろな方でございまして、一応経費の報告をしまして、その要望、地元の要望、負担金の要望を申し上げたわけでございますが、大体生徒数が郡部の方が多し、是非ただ今示さいます地元負担金について、やはり負担をお願いしたいということで申し上げたところが、原則的に負担することはいないというふうな。

町村長、全部来ませんけれども、四人がいまして、その方々は、

大体了解いただけでございしますが、その際に今まで五年間に千四百万程度ちやうだいすることになっておる。本年もううと二回もうう。あと八百万残つておるんですが、それはそのまま当然先にもううべき金を延ばしておいたうだからちやうだいない。その上、さらに地元負担金につきまゝでは、学校生徒数を考えると郡部の方が多いう負担を願うということをお願い上げまゝなら原則的に負担することについてはよろい。そういうことでありまゝだが、今後町村長会が開かれるそうです。そうするときに出まゝで、その割合等につきまゝでいろいろお願いしよう。原則的には負担をしようということでございます。

・教育長(押本禧逸君) 教生田議員さん、第二点の御質問でございしますが、館山高校の女子入学の点でございするけれども、これは先ほどなつと申し上げたかと思ひますが、

北条実科高等女子学校以来、四十年の歴史を持つ、家庭科も県立移管後も強く要望するつもりでございます。要望事項をあらたに申すようにという言葉もありましたので、そこで、館山高校の校長さんや、その他の方々から幾つかのことも聞いたわけですが、その第一にこれは上る内容でございす。

それから二番目に学校で運営上、奇数学年級、例えば、一学年級の募集しない、或いは、三学年級の募集しない、こういうときがあるわけですが、先生方も教室があるならば、一学年級でも二学年級でも先生方が負担はそう、かわるものではないでございせん。ですから奇数学年級は偶数学年級までふやしてもういたい。こういう要望を二つ目にするつもりでございす。これは一方、先ほどからお話がございましたように、少くとも多く、高校志望の生徒を収容するという

ことにもなります。また学校教育課長上にも一学級も
 二学級もそうかわらない。三学級でも四学級でもそう
 かわらないということで、予想として三番目は高校独
 自で申し出があったわけでございますが、ただ今、館山高校の
 教職員、事務職員、用務員等、こういう方々は、この際
 移管にあつては、そのままの状態で御採用をいたさき
 現在よりも不利な状態にならないように特に御配慮い
 たさきたい。こういう三つのことを知事と教育委員会
 の方に要望を先ほどの条件と一緒に出す。一緒にいっても
 内容が違ひますから書類は別になるかもしれませんが、
 そういう要望をすることとで当局の了解を得ている
 わけでございます。

・八番（西村真次君）この議案は当局においてはすでに受
 諾することを原則として提案されたように考えられます。

ところが先ほどもう質疑を拝聴しておりますと、むしろ
移管することが是非かというような原則論も出てお
るように考えらるるわけであります。

そういふような考え方からみますと、私としても、永~~い~~四十
年の歴史を移りながら築き上げた館高、また三億の膨大
な資産をつぎ込んだ館高、これをこのまま無条件に果
立移管にするが果たしていいか、悪いか、こういうような点で
おろずから默然としないものがあるわけでございます。

――過~~う~~去~~り~~の議会におきましてすでに果立移管促進の
決議をいたしております。それに基いて、今日まで当局が
努力してこられたところ、熱意や努力に対して、
敬意を表するとともに、この愛諾について異議を申し
上げるわけではございませんが、そこで一つ議会としてい
ろんな意見があった。

裏をかえせば要望事項を強める。こういうふうな意味
においてあえて申し上げるわけですが是非ただ今
の教育長さんの申したい要望事項をなるべく強い形式
で持ち出していただきたいということを希望いたしたいと思
います。

それから一つお伺いいたしたいことは第五項でございますが
「学校用として使用する財産等」についてはこれを集に寄付
する。という文句でございます。この「学校用として
使用する財産等」の中にももちろんその学校用地も含
まれているのであります。が学校用地は全部市が所
有地であるか。取っ所有地がその中に含まれていないか
どうか。その点をお伺いしたいと思います。

助役(小出武男君)ただ今、西村議員さんの御質問でございま
すが、印刷物がございますので、この機会に配付していただ

またいと思ひます。

ただ今、お話のうちにその中に民有地が含まれております。
従ひまして今後、処理すべきものがござります。

これらにつきましても、極力事務を進めまして市のもうになつた後において、渠の方に寄付をする。こういう形態に進みたいと思ひます。

○八番(西村真次君)御説明了解いたしますが、市が所有地であれば、これは直ちに寄付することは可能であります。が、私有地であるという場合に市のもうにする時、
とそ、交渉過程というものが必要になるわけであつたに
なるので、伺ひたわけでございます。

もし民有地等で都合で手放すのはいまだというふうなものがあつた場合に、この条件に及する結果が、あつたかというところに配するわけですが、

助役(小島武男君)ただ今の御意見、解釈しますとそういう
 ことになるとは思います。が、この点につきましては、すでに事務
 折衝段階におきまして、そういう点を果の方に明示して
 ございます。従いまして、ここで使用してあります言葉、意
 味、「使用せる財産」というものの中に、そういうものを含んで
 あるのであって、今後それについては、市で処理した後において、
 果の方にやる、こういう事務段階における話、合いでござ
 います。付け加えておきます。そういいます。ない。ただ今
 中指摘うと、私有地で使うところを果に寄付
 する、ということは、ちよつといけないうけでございしますが、そ
 の意味は、かような点が事務段階において折衝されて
 おるということでお含み願いたいと思ひますが、果もそ
 う点を了承してゐることを確信しております。

一八番(西村真次君)ただ今の御説明了解いたします。

なおもう一つ第一項の敷地は、「将来拡張予定部分についてはい」という言葉が使っておりますが、ほかに金額につきましては「五千二百二十万円の範囲内において、或いは総額八千七百万円の範囲内において、その幾らを負担する。こういうふうにはつきりうたっておりません。敷地については、最大限の表示が出ておりませんけれども、この点はどういう含みによるものであるか、お伺いしたい。

助役（小出武男君） 実はこの点につきまして、果ならう申し入る条項をちがつと朗読さしていただきます。

敷地については、こういう表現になっておるわけでございまして、校地、敷地は最低と千五十九坪、館山市が消防用地として借用している学校隣接地、約二百二十七坪及び校地、中央を横断している水路、暗渠用としてその面積二百十四坪、合計千五百坪、こういうことに

なっておりますので、千五百坪ということを書いてもい
 んですが、これは最高限度ですから、私どもはここに
 書いてありますように一つには随時よろうということ
 ございます。それから、なお、こゝについては副知事とこち
 ら文教委員長さん、正副議長さん、折衝の段階の
 ときにもよく今後、拡張問題については、教育委員会
 と相談してゐてもらいたいという含み等ございまい
 ち、なお、教育委員会自体も千五百坪を理想に、て
 ろうということ、千五百坪とはつきりしますと、私ども
 としては何が何でも千五百坪ということになると、現
 実の問題として問題点があるやうではないかということ
 については坪数を入れないで申し入れにあるやうな三点を
 逐次、教育委員会と折衝して最後、うまくいけば、千
 五百坪になる。こういうふうな曲的に表現したんです

が、これは教育委員会としても了解してくれていると思います。
また、この意味は千五百坪の意味であるということとさらに
聞かいた場合には私もは申し上げたいと思うわけでござ
います。

○八番(西村真次君)　よくわかります。助役さんや説明で
果る坪数としては、一万五千坪だということとを申さいてあります。
排水路、或いは消防用地をつぶしたとしても、一万一千坪、
さらにせいっぱいで一万二千坪程度しか考えておらない
と思いますけれども、あと三千坪ばかり不足分、果る希
望する坪数からいけば、不足分があるわけで、これをあと
から要求されるようなことがあつてはならない。そのような
ことから伺いたいわけでございます。

・議長(黒川佐太郎君)　本案はこれにて質疑を打ち切り討論
省略原案通り可決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)異議なしと認めます。よって本案は
原案とおり可決されました。

本臨時会の告示議案はこゝにて議了いたしました。
よって本臨時会を閉会いたします。

午後三時三十九分 閉会

本日の会議に付いた事件

一 議事日程に同じ

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 祿郎

秋山 大三郎

望月照正 安西益男

辻田実 石井正

黒川佐太郎 菊井敏博

志村信作 小沢恵太郎

関武夫 西村真次

藤田好治 保科忠夫

江田徳太郎 君塚喜三

中村省吾 島野茂樹郎

萩生田七郎 鈴木孝

鳴田繁 山田教幸

鈴木市蔵 安藤亀吉

安沢徳順 三沢節

高橋文治 山本昇

松本藤太郎 山口康

昭和四十年二月十七日

右会議の次第を録しここに署名す。

館山市議会議長

黒川 隆夫

同

署右議員

中村 省吾

同

小沢 惠太郎

